



新和小だより

第3号

令和5年5月31日発行

〒339-0027 埼玉県さいたま市岩槻区大字尾ヶ崎1252番地
電話番号 048(798)0003
Webページアドレス <https://niwa-e.saitama-city.ed.jp>

みんなでつくる
みんなの学校

自立・尊重・創造

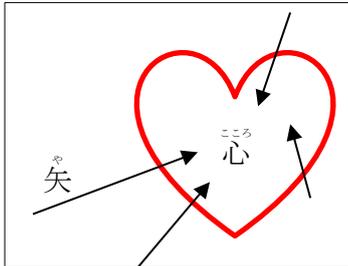
児童数
合計 192名

「いじめの矢と心」

校長 樋浦 康光

雨の雫に紫陽花が美しく映え、校舎前の岩石園の池には若蛙のかわいらしい鳴き声が響き、日に日に梅雨の気配を感じます。先日は、晴天の下、運動会を実施することができ、子どもたちは、保護者の皆様、地域の皆様の声援に囲まれながら、力いっぱい競技・演技を行うことができました。また、高学年の子どもたちを中心に、係分担などの役割を十分に果たし、運動会を自分たちで自主的に運営することができました。運動会を通して、子どもたちはまた一回り大きく成長し、たくましくなると実感しております。保護者・地域の皆様におかれましては、運動会への御理解と御協力、本当にありがとうございました。

さて、6月は「いじめ撲滅強化月間」となります。5月18日には第1回学校運営協議会に先立ちまして、いじめ防止対策委員会を開催しました。同会議では、「いじめは絶対に許されない」という認識が大前提であることが再確認され、引き続き教職員が一丸となり、いじめ撲滅を目指してまいります。今号では「いじめの矢と心」について御紹介します。



左図は、いじめられている人の心を表しています。心にはたくさんの矢が刺さっています。悪口の矢、暴力の矢、無視の矢、からかいの矢……。

このままにしておいたらこの心はどうなるでしょう。きっと壊れてしまいます。そうなる前に矢を抜かなくてはなりません、本人には抜くことができないのです。矢を抜くことができるのは矢を放った本人なのです。

矢を放ってしまった人が、想像力を働かせ、相手の気持ちに気づき、反省や謝罪をし、いじめをやめることができたときに矢は抜けます。しかし、矢が抜けても長い期間、傷跡が残り、その後の回復に非常に長い時間を要することがあります。だからこそ、いじめは絶対に無くさなければならないのです。一方、矢を放っている人の心にも目を向けてみますと、実はいじめられている人の心と同じようにたくさんの矢が刺さっているのかもしれない。その人の矢も抜いてあげないといけません。それぞれが、相手の心の状態に気づき、励まし、寄り添い、あたたかな声をかけ合うことができれば、矢を放つことも刺さることもなくなっていくことでしょう。そのために、私たち大人は、子どもたちのよさを見つけ、認め、自己肯定感を高めるなど一人ひとりの心をはぐくみながら、人を傷つけてしまったときには「だめなものだめ」と毅然と対応していくことが必要であると考えます。

今月はいじめ撲滅に向けて、各学級で話し合う時間を設けたり、スローガンを作成したりするなどの活動に取り組んでまいります。御家庭におかれましてもいじめ撲滅について話題にさせていただき、お子様と一緒に考える機会を設けていただけたら幸いです。

なお、お子様のことで御心配なことがありましたら、いつでも遠慮なく学校へ御相談ください。職員が総力を挙げて対応いたします。引き続き、御理解、御支援のほど、よろしくお願いたします。